

マンション自治会のススメ コミュニティは資産価値になる!

取材・文：市民ライター 小林 涼子

かしの木台ハイツ



緑豊かな敷地内。ピワや柿の木もある

かしの木台ハイツは、横浜市営地下鉄グリーンライン都筑ふれあいの丘駅から徒歩15分ほどの場所にある。敷地の約2割は保存緑地になっており、四季折々の植生を感じられる緑豊かなマンション群である。総戸数は260戸ほどと多くはないものの、住民で組織された自治会の加入率は高く、一年を通じてイベントの開催や防災訓練が行われている。マンション自治会を設立するとどのようなメリットがあるのか、自治会及び管理組合役員に話を聞いてみた。

多世代交流のきっかけ

かしの木台ハイツ自治会は、昭和59年の入居開始後間もなく設立された。当時から住む役員に聞くと「新しい土地で知り合いもなく、コミュニティが必要だった」と振り返る。現在では、自治会と管理組合が協働し、様々な取組を進めている。

リタイア世代を中心に11年前に発足したのが植栽管理委員会だ。以前は業者任せだった敷地内の木々や花壇を住民主体で手入れしている。その結果、管理組合の費用が削減され、住民が交流する機会も得られている。

一方、若い世代を中心に4年前に発足したのが、子ども会OBOGからなる「手仕事の会」だ。これまで、敷地内の樹木プレートや巣箱を子ども会と植栽管理委員会が共同で製作したり、先輩方の知恵を借りて餅つきイベント等を開催したりと、世代をつなぐイベントを多数企画してきた。一見大変そうな活動でも、手仕事の会代表は「自分の生活を豊かにするために関わっている」と活動自体を楽しんでいる。

このような取組を始め、世代を超えた交流が多く生まれている。



子ども会と植栽管理委員会による樹木プレートづくり



手仕事の会により数年ぶりに復活した餅つき



花壇の手入れもする植栽管理委員会にはボランティアが30人ほど関わる



毎年秋に行われる落ち葉の集いは、多くの住民が集うビッグイベント!

防災への取組

防災にも力を入れている。自治会と管理組合から組織された防災委員会では、月一回の定例会で活発に意見を交わしている。

平成24年には横浜市の防災マニュアルを基に「震災時活動マニュアル」を作成し全戸に配布。平成30年4月、第2版発行を機にマニュアルの検証と活動の周知のため、年に複数回の定期的な防災訓練を行なっている。初めこそ参加率も低かったが、年々住民の意識も高まり、昨年の

訓練では80%を超える世帯が参加した。

訓練の安否確認では、自治会の階段委員が責任を持って各戸を回る。任期一年の階段委員が毎年訓練に参加することでコミュニケーションが図られ、またマンション全体の防災意識も高まっている。

防災委員会では継続した取組を通し、住民皆が安全に暮らせるよう、住民の協力を得ながら、災害時に強い体制づくりを目指している。

マンションの資産価値とは

かしの木台ハイツは、今年築38年を迎える。決して新しくはないが、敷地内は綺麗に維持管理され心地良い。ここでは、子ども会と植栽管理委員会の活動や防災委員会の取組に見られるように、自治会と管理組合が連携し、協働で取組を進めることでより深いコミュニケーションが

図られている。こうした取組による知識や関わりへの蓄積は、住民同士の主体的な活動を促し、防災や防犯にも生かされている。そういった安全な住環境と豊かな関わりを維持していくために、充実したコミュニティのある安心感も、資産価値と捉えていくことが大切ではないだろうか。



取材にご協力いただいた皆さん

上段左から、小鷹さん、根市さん、岡村さん、星野さん、古川さん。
下段左から、神田さん、上條さん、山本さん、名取さん。